

## 活用に関する基本的事項について（案）

### 1 基本方針

総論の「4 活用に関する基本的事項」について、基本構成とその内容は、原則として2015年版を踏襲し、最新の知見等があるものについては更新する。

### 2 基本構成と内容のポイント

基本構成	内容のポイント	報告書
① 活用の基本的考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事摂取状況のアセスメントにより、エネルギー及び各栄養素の摂取量が適切かどうかを評価するところから始まるPDCAサイクルを基本する旨を記載。</li> </ul>	23 頁
② 食事摂取状況のアセスメントの方法と留意点	<p>(アセスメントの方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>食事摂取基準を用いた食事摂取状況のアセスメント方法を整理。</li> </ul> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー摂取量と栄養素摂取量との間には強い正の相関が認められることが多いため、<u>各栄養素の摂取量を評価するに当たっては、エネルギー摂取量の過小・過大申告及び日間変動による影響を可能な限り小さくすることが重要であることと、そのための方法を追記。</u></li> <li>また、<u>エネルギー及び各栄養素の摂取量における日間変動について、エネルギー、たんぱく質、ビタミンC及びビタミンD摂取量で観察された結果を追記。</u></li> </ul>	23～33 頁
③ 指標別に見た活用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li><u>特に推定平均必要量は栄養素によって策定方法が異なることから、各栄養素の摂取量の評価に当たっては留意が必要である旨を追記。</u></li> </ul>	33～36 頁
④ 目的に応じた活用上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事改善を目的とした活用に当たっては、個人の場合と集団の場合とで方法が異なることから、それぞれに応じた留意点について記載。</li> <li>活用上の留意点については、目的に応じた活用の基本的概念を示すとともに、食事摂取基準を適用した食事摂取状況のアセスメント、食事改善の計画と実施に関する留意点を記載。</li> </ul>	36～45 頁

※上記内容のほか、活用上の課題について、総論の「5 今後の課題」に追記。

### 3 その他

2019年度中に、食事摂取基準の利用者（主に行政・医療・介護領域の管理栄養士等）を対象とした活用資料を作成する。